

日時 令和2年12月8日(火)

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面会議により開催)

- 議題 (1) 日中サービス支援型共同生活援助事業開始に伴う事業者説明について
- ① ソーシャルインクルー株式会社
 - ② 株式会社恵
- (2) 第5次障がい者基本計画・第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画素案に係る意見の回答について
- (3) 医療的ケア児支援専門部会からの報告について

議事要旨

議題(1) 日中サービス支援型共同生活援助事業開始に伴う事業者説明について

新型コロナウイルス感染症拡大対策を徹底の上、下記のとおり必要最小限の規模で実施。

日時 令和2年12月8日(火) 午後1時30分～午後3時10分

場所 福祉の村友愛の家 多目的室

参加者 加賀時男、三浦博幸、山田美佐子、荻野義昭、佐藤健哉
地域アドバイザー 大木基史

事務局 障がい福祉課長：鈴木ますみ

同施策係長：畔柳直典、同主任主査：田中麻里恵、同主事：角南仁美

障がい者基幹相談支援センター：稲葉英隆

議題(2) 第5次障がい者基本計画・第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画素案に係る意見の回答について

資料の配布により報告

議題(3) 医療的ケア児支援専門部会からの報告について

資料の配布により報告

議事録署名者 山田美佐子委員、荻野義昭委員

事業者説明要旨

○事務局(障がい福祉課主任主査 畔柳)

ただ今から、日中サービス支援型共同生活援助事業開始に伴う事業者説明を始めさせていただきます。

令和2年度第4回岡崎市障がい者自立支援協議会につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催とさせていただいておりますが、本日の事業者説明につきましては、今年度中に実施の必要があることから、事前に委員の皆さまから御意見をいただいた上で、新型コロナウイルス感染症対策を徹底の上、必要最小限の規模で実施させていただきます。

それでは、ここからの議事進行につきましては、加賀会長にお願いいたします。

○加賀会長

それでは、議事を進めさせていただきます。

議事に入ります前に、議事録署名者2名の選出について、本日の出席者の中からお願いしたいと思います。会長一任で御異議ございませんか。

(異議なしの声)

それでは、山田委員と荻野委員をお願いします。

○加賀会長

次第に従いまして、「日中サービス支援型共同生活援助事業開始に伴う事業者説明」について、障がい福祉課から説明をお願いします。

○事務局（障がい福祉課主事 角南）

事業者説明実施方法を説明

○加賀会長

それでは、1つ目の事業者説明に入ります。ソーシャルインクルー株式会社様、よろしくお願いいたします。

○ソーシャルインクルー株式会社（小竹氏）

資料に基づき説明

○加賀会長

ありがとうございました。ただ今の説明に御質問等がありましたらお伺いいたします。

○三浦副会長

社会福祉法人愛恵協会の三浦です。いくつか質問します。

1つ目は、小竹さんの障がい者支援の経験歴。

2つ目は、日中サービス支援型共同生活援助は、住まいと活動の場とがやむを得ず大変な人を見つめるという事業だと思いますが、併せて通所施設を近くに作る予定はあるのか。通所施設が併設されると、囲い込みのような形になってしまう心配があります。

3つ目は、貴社は4年間でたくさんの事業所を作ってきたので実績はあると思いますが、各地域の利用者の親御さんからの評価や、社会福祉法人等の先行している同業事業者からの評価、地域福祉として仲良くできているのか。

4つ目は、私もグループホームをやっていて支援が大変な人を抱えています。大変な人を任せるに足る信頼が貴社にあるかということ、今はまだわからなくて、期待があるけれど不安もあります。他にも種類はありますが、身体、知的、精神の代表的な3障がいに対して、どの程度整合性の高い支援ができるのか、自信があるのか。御自身の経験歴がないと答えるのが難しいかもしれませんが、わかる範囲で構いませんので、大事なことです。教えてください。

○ソーシャルインクルー株式会社（小竹氏）

1つ目、私の経験歴といたしましては、弊社に入ってからとなりますので、1年半となります。

2つ目は、通所を作る予定は今のところはありません。グループホーム事業のみでやらせていただきたいと思っています。

3つ目は、地域でさまざまではありますが、私としては、親御様の評価としては良い評価をいただいているのではないかと考えています。グループホームに入居された後に親御様が面会という形で本人に会いに来てくださった際に、御自宅では見られなかった成長の部分というのを親御様が見てくださって、涙を流される姿を何度か見させていただいていますので、そういった部分は御評価いただけているのかなと思います。

既に地域で運営をされている事業者様からの評価に関しましては、なかなか厳しい意見が飛んでいるのは事実です。まだまだ弊社といたしましては、支援力不足というのが否めません。そこは、やはり外部の研修を受けていって、1つのグループホームの職員が全体的にスキルアップするということが必要だと思っています。

4つ目は、今弊社で運営しているホームの中では、知的障がい、精神障がいの方が多いです。特に、この日中サービス支援型グループホームに関しましては、精神病院さんからの御紹介が非常に多いです。精神病院のソーシャルワーカーさんからいただく言葉としては、従来のグループホームでは日中活動がなく入居が難しい方にとって、日中サービス支援型のような日中グループホームに残っていても支援ができる体制が整っているグループホームを待っていましたということで、精神病院さんから御紹介いただくことが非常に多いです。

また、難しい障がいという部分について、強度行動障がいの方がいらっしゃるかと思います。強度行動障がいの方について、弊社で運営している豊川のグループホームで一度、体験という形で同行させていただいた際、御本人様にとってもかわいそうな思いをさせてしまったケースがあります。グループホームに入ってからすぐにパニックになってしまわれ、警察の御協力をいただくという形になってしまい、本人に怖い思いをさせてしまっていますし、かつ、入居されている御利用者様にも怖い思いをさせてしまったかと、とても反省しています。今後、支援がなかなか難しい御利用者様も多くいらっしゃると思います。その中で、弊社として受け入れをしないかというところ、そうではありません。こちらとしても、しっかりと御本人様にお会いし、アセスメントを取らせていただき、その上で、相談員さんと相談させていただき、入居に向けた支援の方法をしっかりと練って、受け入れるべき体制を整えた上で、受け入れていきます。受け入れることが難しかった場合であっても、見学という形で、グループホームとはこういうところだということを御本人様には見ていただけたらと思っています。

○山田委員

岡崎市手をつなぐ育成会、知的障がいの親の会の山田です。事前に委員から募った意見書にもありますが、家賃設定が高額ではないかというところがあって、この家賃を計算すると、年金で賄えない人達も出てくるのではないかと思います。

また、昨日も、グループホームの指導員さんの虐待ということがニュースになっていました。そういうことは、親としてはとても心が痛い部分としてあります。皆さん介護職に入るときには障がい者のためにという高い志を持って入られていると思います。私達親でも子どものことで困ることがあって、それでも親ですので虐待とかそういうところまではいきません。仕事として最初は気持ちを持って支援してくれていても、昨日のニュースの方も日頃のストレスが溜

まっていたと発言されています。やはり、働いている人達のケアもしていただかないと、始めた当初はよくても、段々と働いている人達の心も荒んで、それが全て入所している意思表示もはっきりできない人達に向かうというのは、私達親としてはとても悲しいことなので、そういうことが起こらないようなシステムはどういうものを考えていらっしゃるのかなと思います。

もう1つ、新しくできたグループホームに入るとなると、幅広い年齢の方が入ることになると思います。私達親は、子どものために一生懸命努力して、ある程度落ち着き、社会性ができてきた状態で送り出しますが、入居時の対応の仕方1つによって、先程の強度行動障がいの方のように入った途端にパニックになるとか、強度行動障がいがないとしても、環境に馴染めるまでにいろいろな変化が起きる場合があります。そういったことへのケアというのも、すごく大事にさせていただきたいなと思っていますが、その辺りの対応はどうでしょうか。

○ソーシャルインクルー株式会社（小竹氏）

まず、家賃設定が高いというところに関して、弊社が運営している多くのグループホームは、オーナーさんが建てたものをお借りさせていただいています。そういった関係で、家賃設定はオーナーさんとのやり取りで金額が決まってしまうのが実情です。今後、運営していく中で家賃設定が高いということで問題視されてくるようであれば、オーナーさんとも話し合いをさせていただいて、対応策を検討していきたいと思っています。

次に、全体に対するシステムや、受入体制というところに関してですが、現在エリア毎に2～3名のエリアマネージャーを置く形で、運営支援課というものを設けています。エリアマネージャーが各ホームに出向き、まずスタッフのメンタルケアにあたり、かつ、そこでの支援内容をしっかり見て、まずサービス管理責任者に落とし込みをさせていただいています。その中でも、メンタルケアという形でスタッフに声をかけ、サービス管理責任者へもアドバイス、声かけというところで、支援内容をしっかりと見つめ直していきたいと思っています。

受入体制に関しても、同じような形で運営支援課として動いていきたいと思っています。見学の対応や入居の受け入れに関しても運営支援課が立ち会う、立ち会うことが難しければ、サービス管理責任者に入居する方々の特性やその支援について、言葉での支援はもちろん、マニュアルの作成も現在考えているところです。

○荻野委員

岡崎肢体不自由児・者父母の会の荻野です。医療関連のところ、どのような体制を取られているか教えていただきたいです。

また、食事について、外注食を使っているとのことで、ミキサー食等があると思いますが、スタッフさんがミキサーを実際に触られるのか、触られないのか。ミキサー食ばかりではなく、刻み食等から徐々にミキサー食に変わっていくのか等のところで、スタッフさんが携わられるのかが気になりました。

○ソーシャルインクルー株式会社（小竹氏）

まず、医療との連携について、日中サービス支援型は協力医療機関として病院と連携を図らなければなりません。その中で、私共としても協力をいただきたいと思っていますのが、精神病院さんとの医療連携を図っていききたいなと考えています。

食事について、まずミキサー食についてはスタッフの方でミキサーを作るという形ではなく、業者がミキサーしたものを提供するという形になります。刻み食については、こちらのスタッ

フで細かく刻んで提供という形になります。ミキサー食になってくると、やはりスタッフではどこまでの部分がミキサー食か、本人に合ったものがどこまでのものかということが、なかなかスタッフの調理技術によって差が出てしまうと思います。ですので、そういったところは業者さんへお願いすることによって、皆さん統一したミキサー食が提供できるかと考えています。

○大木地域アドバイザー

西三河南部東圏地域アドバイザーをしています大木です。質問というよりはお願いという形となりますので、よろしく願いいたします。

山田委員からありました東浦の件が最近では一番ホットなのかと思いますが、虐待の部分について、入所施設でもそうですが、日中支援型ですとどうしても外の目が入りづらい部分があります。また、小竹さんもおっしゃっていたように新しいスタッフさんが多分大勢いらっしゃると思いますので、そういう方達が初めて障がい、しかも重度の方達の対応をしていただく形になると、たとえそれが福祉系の学校を出られていたり、資格を取得されていたりしても、実践になってくるとだいぶ違うのかと思いますので、その辺での戸惑いとか、志高く入ってきても、そこでのストレスのかかり方で今回のケースのように手が出てしまうとか、どうしても余裕がなくなってしまうことが、どうしてもあるかなと思います。そういうところで先程言った外部の研修であったり、それこそ岡崎市では事業所の研修会や連絡会等もあって、そういうところで虐待防止の勉強会をしていたりですとか、私達基幹相談支援センターが虐待防止センターも兼ねているので、事業所へ伺って研修会をさせていただいたりだとか、そういう形でやっています。ですので、そういうものをうまく活用していただいて、当然会社内で勉強していくというのも1つですけど、外部のいろいろな方達ともうまく連携をして、意識を継続して持っていけるように、1回やれば終わりではないですし、私達自身も毎年虐待系の研修も含めて行かせていただいて、意識を啓発していますので、そういったことを引き続き、継続して行ってってください。

もう1つ、エリアマネージャーさんがいて、いろいろとケアをしていくというお話を伺いましたが、それは多分エリアマネージャーさんがすごく大変なのかなと思っています。エリアマネージャーさん自身が、御自身の経験則だけでなく、前述した虐待センターの研修等の御自身をブラッシュアップしていただく機会をきちんと設けないと、その方達の背中を見て皆さんお仕事をされるはずで、そこで何かあれば、どうしてもエリアマネージャーさんの責任もついてくるとと思いますので、エリアマネージャーさん、もしくはサービス管理責任者さん等の上に立つ方がきちんと継続して研修を受けていただく、継続して自分をブラッシュアップしていただく、そういう機会を積極的に持っていただいて、虐待というよりは小さな支援のミスマッチをなるべく少なくしていただけるように、継続して行っていただければと思いますので、よろしく願いします。

○加賀会長

職員に、自分の子や家族に障がいのある方をお持ちの方はいますか。

○ソーシャルインクルー株式会社（小竹氏）

いらっしゃると思いますが、各御家庭の事情までは把握していません。

○加賀会長

私は自身が障がい者ですが、やはり、障がいのない方が障がいのある方を支援するというのは本当に難しいです。思い通りにいなくて手が出てしまって、それが虐待と言われることもあります。そういうところをよく考えてやっていっていただかないといけないと思います。いろいろなところでこの仕事をされているので、その経験から岡崎市に作るのであれば、岡崎市流に、地域の人ともお付き合いできるような施設を作っていただければありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

○加賀会長

ソーシャルインクルー株式会社様の事業者説明は終了しました。本日の事業者説明を基に、意見書を作成してお送りします。ソーシャルインクルー株式会社様、本日はありがとうございました。

続きまして、2つ目の事業者説明に入ります。株式会社様、よろしくお願いいたします。

○株式会社恵（笹本氏）

資料に基づき説明

○加賀会長

ありがとうございました。ただ今の説明に御質問等がありましたらお伺いいたします。

○三浦副会長

社会福祉法人愛恵協会の三浦です。いくつか質問します。

1つ目は、笹本さんの役職、今の組織でどういったことをされているのか。また、障がい者の難しい人を支援した経験歴、どれくらいのキャリアがあるのか。

2つ目は、住むところと併せて通所を行うことについて囲い込みを心配している。住むところで大変なことをやってくれるのはありがたいことですが、囲い込みなのかどうかをわかる範囲で教えていただきたいです。

3つ目は、身体、知的、精神とありますが、その重度のことをどれくらいわかっているのか。あなたのわかる範囲で、どういう人が重いという人で、そういう人を支援したいと考えているのか。

4つ目は、既存のグループホームはいろいろなところでされていますが、地域からの評価、保護者と関係する福祉機関からの評価というのは当然御承知で、気にされていると思います。どういう風に受け止めているのか、その辺りのことを教えていただきたいです。

○株式会社恵（笹本氏）

1つ目、私の役職ですが、弊社内では支部長という形で、今ですと豊川市のグループホームと生活介護、幸田町のグループホーム、西尾市の短期入所、岡崎市のグループホームと生活介護を担当させていただいております。私のキャリアは障がいに携わって今年で6年目になります。短期入所の支援員から始め、そこで多種多様な障がいのある方を支援させていただく中で、別の短期入所で管理者をさせていただいて今に至ります。障がい種別は身体、知的、精神全て支援させていただきました。管理者をする中でグループホームの立ち上げにも関わらせていただいております。

2つ目、囲い込みかどうかですが、基本的に囲い込みとは思ってなくて、遠方から入られる方がわりといらっしやって、そういう方に関して日中の居場所というものが必要になってくると思いますので、もしよければ弊社の生活介護を利用してくださいという形を取らせていただいています。岡崎市内でも美合のグループホームに入居されている方で、併設の生活介護を使われている方が半分に満たないくらいで、別の市内事業所を利用されている方が多いです。その中で御家族に説明をさせていただく中で、グループホームで過ごす中で日中の様子というのも知っていただきたいという部分もありますし、日中支援型のグループホームというのが、私共の見解ですと、65歳を超えても最後の看取りまで支援するものが日中支援型グループホームの在り方なのかなという部分はあります。65歳を超えても一応支援できるような施設を目指す中で、周りの生活介護を使っていたきながら、一生を我々でサポートさせていただくような体制は取らせていただいていますので、その辺りに関しての強制というのはいしていません。

3つ目、私の中での重度という括りですが、区分が重いから重度で大変だとか、区分が軽いから軽度だとかいう概念はあまり私の中ではなくて、区分が軽い方でもいたずら等が多い方もいますし、区分が重い方でも御家庭の中で御家族が一生懸命支援していただいているおかげで自立度が高い方もいますので、その辺りに関しての重度、軽度という思いはありません。ただ、私が今まで支援をしていく中で、強度行動障がいの方で自傷が止まらなかったり、自分の中のルーティンから外れると物に当たってしまったり、職員に噛みついてしまったりだとか、そういう方に関しては困難事例だなという思いはあります。他には、御自身だけでなく御家族との関係性も含めての困難事例ということもありました。愛着障がいが強くて、御本人はもちろん、御家族も御本人に対する愛着が強いことで、施設にすぐ会いに来てしまうことで、御本人が不穏になられて手がつけられない状態になってしまうということがありました。このような、さまざまの方と接してきたつもりではあります。

4つ目、私の担当のグループホームの評価といたしましては、幸田町のグループホームが弊社の今までやってきたグループホームとは少し違う形で、併設の事業所がないパターンのグループホームになります。どうしても事業所併設のグループホームですと相談員さんとの関わりの数が限られてきたり、他の事業所との関わりというのがかなり少なくなってきたりします。その中で、幸田町のグループホームに関しては11事業所の施設の方と関わらせていただいています。御家族や相談支援事業所とのやり取りというものが多くなってきています。その中で言った言わないだとか、情報が錯誤してしまうことがあるので、その辺りに関してはもっと一貫性を出して、法人と施設とも連携を取りあって、不適切な情報じゃないけれども、そういうものが流れないように、しっかりやっていきたいなとは思っています。幸田町のグループホームにつきましては、私の中では御家族の評価はものすごく高いと思っていまして、喜んでいただいているのかなという思いはあります。

○三浦副会長

今のお話を聞くと、あなたはかなり責任を持っている立場かと思しますので、幸田町もしっかりと見ていただきたいです。うちもいろいろな事業所と関わりがあり、相談支援事業所もあるので、いろいろと話を聞いています。しっかりと見ていただいて、最低限求められている支援をしていくのはもちろん、その上で専門性を高めていってください。一緒に地域やっていく仲間として、難しいところをやるのだから、それくらいの覚悟は持ってほしいです。

○山田委員

岡崎市手をつなぐ育成会、知的障がいの親の会の山田です。今の説明の中で、この事業を始めるにあたり、親の将来の不安を取り除く、それも看取りまでということでおっしゃっていただき、それが本当であれば私達親は本当に安心できます。しかし、いろいろな点で将来の不安を取り除ききれない部分もあるので、その点をお伺いします。

1つ目は、どこというわけではありませんが、株式会社等が立ち上げたグループホームというのは、運営がうまくいかなかったら撤退するのではないかという話を聞くことがあり、不安があります。

2つ目は、高い志を持って働かれているとは思いますが、長くやっているうちに日頃のストレスが溜まってきて、それが、自分からいろいろ発信できない重度の知的障がいの方に向かってしまうというのが親にとっては悲しいことです。その部分をどのようにケアしていくのかという具体的なものがあれば、お伺いしたいです。

3つ目は、グループホームを選ぶ際、大型の入所を選ぶよりも、より家庭的なところでグループホームがいいなと親としては思っています。今回、制度なので仕方ないとは思いますが、利用定員が40人と大きくなってきていることで、グループホームにより家庭的なことを望めるのかなという疑問があります。

4つ目は、3障がいと同じ空間で暮らすことになるとは思いますが、障がい特性が違うため、その兼ね合いが気になります。また、幅広い年齢層の方が入られるかと思えます。親が積み上げてきて、重度ながらも社会生活をしっかりとわかってきたなというところで入居をお願いしたときに、受け入れの環境や対応によっては、それまで何十年と積み上げてきたものが一気に崩れるということもありますよね。その辺りの注意点があれば教えてください。

5つ目は、日中もグループホームで過ごす方について、日中支援型なのでいろいろな支援をいただいているかと思えますが、具体的にどのような支援をいただけるのかをお伺いしたいです。

○株式会社恵（笹本氏）

1つ目、株式会社というところで、運営がうまくいかなかったときに撤退するか否かという話です。弊社では、多数の事業所を各市町村で基本的には1つか2つ展開させていただいております。たとえば、1つの事業所が今回のコロナ禍で運営停止になった場合、実際に名古屋市でも4週間程閉鎖したケースがありますが、1つの事業所が閉鎖しても周りの事業所でバックアップして運営しています。ですので、それに関しては問題ないと思っています。もちろん、そういったことがないよう一生懸命にやらせていただきます。

2つ目、働いている方のメンタルケアについて、冒頭でお話しさせていただきましたが、1つ課題の部分ではあります。その中で私共がやれるのは、風通しをよくしていくことがまず1つです。ですので、管理者との毎月1回の面談というのもそうですし、高い志を持って働いていく中で、スタッフが働きやすい環境作りというのは進めています。具体的には、当たり前のことではありますが、服薬の管理の仕方だったり、新しく入った職員がまず利用者様の顔と名前が覚えられるように利用者様の事前情報を作成したり、休憩時間をしっかり決めて、なかなか休憩は取りづらい仕事ではありますが、休憩は休憩という形でしっかり取れるような体制を整えたりだとか、そういったところには力を入れています。もちろん、私も施設に顔を出して、スタッフとお話しさせていただく機会というのも多く設けています。本当に課題という部分で

すので、今後もいろいろな事業所さんや社会福祉法人さんにも相談させていただいて、一緒にこういう取り組みというのはさせていただければと思っています。

3つ目、事業所のコンセプトとしましてはアットホームなグループホームというのをどこの事業所も目指しています。40床といっても10人ずつを単位としていまして、各フロアに専任のリーダーを置かせていただきます。また、アットホームにやっついこうという思いから、四季折々のイベント等は10床毎に個別で実施させていただいて、なるべくアットホームな形でやらせていただいています。

4つ目、3障がいの対応について、精神障がいをお持ちの方についてということで難しいこともあります。よくお話させていただくのが、我々の経営してきているグループホームですと、わりと知的障がいの方が多いです。重度の知的障がいの方が多い中で、精神だけをお持ちの方が入ってきたときに、本当にその方が耐えられる環境なのかどうかという部分も相談員さんとお話させていただく中で入居を進めています。現状では、精神だけをお持ちの方というのは限りなく少ないです。

5つ目、日中具体的にどのようなことを行っていくかについて、私が担当しているところの実績になりますが、併設の日中支援型が豊川市に1つ、幸田町に1つ、美合に1つとありまして、日中もグループホームで過ごされる方が20床に対して多くて3名から4名程というのが現実です。その中で日中どのようなことをするかというと、まず本人が一番やりたいことをやっています。たとえば、水遊びがしたいのであれば、1日の中で本人がお風呂で楽しめるような時間を作ったり、外出やドライブが好きな方であれば、一緒にドライブや公園に遊びに行ったりしています。その中で、やはり外に出ていくことがなかなか難しいというところで、地域との関わりが一番の課題であり、大切なことになってくるかと思っておりますので、地域の公園へ行ったり、スーパーまで一緒に行って本人にお菓子を選んでいただいたり、そういった活動をしています。今後、日中支援型グループホームというところで、事業所の中でも何かしらの軽作業等、工賃が発生するようなこともやっついかないといけないのかなと考えています。

○荻野委員

岡崎肢体不自由児・者父母の会の荻野です。これまでに、身体を見られたことはありますか。

○株式会社恵（笹本氏）

私自身が身体を見たことがあるかという、短期入所で来られる方でしたら過去に勤めていた事業所でありまして、美合のグループホームにも身体障がいをお持ちの方がいらっしゃるの、そういう方に関して支援に入らせていただいたことはあります。実際に、身体の方を中心に支援しているMG Styleで1週間研修し、医療行為の必要な方にも触れさせていただきました。

○荻野委員

今回は身体中心の施設として、重度の方も受け入れられるということでよかったですでしょうか。

○株式会社恵（笹本氏）

そうです。身体障がいの方や、重複障がいの方の受け入れというのもしっていきます。

○荻野委員

その方達は、車椅子を使われる方を想定していますか。

○株式会社恵（笹本氏）

車椅子を使われる方も想定しています。

○荻野委員

一般生活の中で、どこまでの介助をしようと思われていますか。

○株式会社恵（笹本氏）

入浴に関しては、リフト浴というのも準備させていただきます。食事に関しても、もし胃ろう等がある方であれば、訪問看護や看護師を用意する可能性もあります。

○荻野委員

多分、建築会社さんが設計されて、そのまま使われているのかなと思いますが、身体の方達がこのスペースで使うには、とても厳しいと思います。食堂・居間にしても、車椅子の方10人がこの中には収まらないと思います。お風呂にしましても、いくらリフト浴があるとはいえ、このスペースで介助が可能かというのは、とても不安を覚えます。また、各居室は中窓で設計されていますが、これでは外に避難できません。何かあったときに避難が全くできないということで、そもそも身体の方を想定された設計ではないです。ここに身体の方の車椅子の方を入れるというのは、とても不安を覚えます。はたして、これで大丈夫かというのが率直な意見です。たくさん経験があるような話も聞きますが、とても不安のほうが多いです。各スペースも、法的にはこの設計で合っていると思いますが、こういう施設がこれでいいのかについて、もう少し、実際にされているところのいいところを取り入れられる設計というものに目を向けられたらどうかと思います。今回の施設は今更の話になるかもしれませんが、今後新しく作られる際には車椅子に応じた設計がもう少し必要かなと思います。食堂も10人一緒には入れず、時間差で食べるのであれば収まるのかもしれませんが、その分の時間は倍以上かかりますし、はたして可能なのかなと思いますし、いろいろなことが気になりました。

もう1点、医療関係の繋がりというのはいかがでしょうか。

○株式会社恵（笹本氏）

医療関係との繋がりですが、身体に障がいをお持ちの方で、重複障がいをお持ちの方で精神面に関しては三河病院さんと密に連携を取らせていただいている面はあります。医療面に関しては、今後にはなりますが、岡崎市民病院さんや三河青い鳥医療療育センターさんとも今後お話をさせていただくことが多くなるのかと思っています。

○荻野委員

ここのグループホームとして、配置とまではいかなくても、何かあったらすぐその病院に行けるというような体制ではあるのでしょうか。

○株式会社恵（笹本氏）

そのような体制も、しっかりお話させていただく中で了承が得られる病院があれば、岡崎市内でも作っていきたいと思っています。我々も岡崎市に来てまだ日が浅いものですから、皆様にお聞きしたいことも多くありますので、ぜひ御指導いただければと思います。

○大木地域アドバイザー

西三河南部東圏域地域アドバイザーをしています大木です。先程の医療の件で、指定の書類付表7に協力医療機関が挙がっていますが、これは既に岡崎市内で井田の辺りで御協力いただいているということでしょうか。

○株式会社恵（笹本氏）

協力医療機関もこれからです。こちらには既にお話させていただいて承諾は得ていますが、場所が井田からだと遠いため、もしさらに近場で御協力いただける病院があればそちらのほうがいいかなと思っています。

○大木地域アドバイザー

特に身体を中心にやられるということで、重度となってくると、どうしても医療との密接な部分、場合によっては医療的ケアが必要な方達をどういう風に受け入れていくのかとなると、常時看護師が必要になってくると思いますから、その辺の体制がきちんと取れるのでしょうか。看護師さんはなかなか雇いにくいところもあると思うので、心配はするところです。もちろん、できて運営していただきたいとは思いますが、なかなか身体でしかも重度の方を見てくれるグループホームさんは当然少ないですし、岡崎市でもないので、期待はしたいところです。しかし、体制をきちんと整えていただかないと、リスクが大きすぎてもいけないと思うので、そこはよろしく願います。

これはお願いとしてお話をさせていただきますが、虐待防止の観点の部分で、やはり経験の少ない職員さん達に対して、笹本さんを始め経験のあるエリアマネージャーさんや管理者さん、サービス管理責任者さん等がいろいろバックアップをしていただくということになると思うので、まずそちらの方達が、自分達の研修なり、ブラッシュアップなりをきちんとしていただかないと結局意味がないのかなと思っていますので、継続して行っていただく必要があると思いますので、よろしく願います。また、外部の研修や、岡崎市でも施設系の事業所の連絡会というのがありまして、コロナ禍でなかなか開けていませんが、そういったところで同じグループホームや入所施設等の事業所さんと集まって、虐待防止の研修やその他運営について等、職員さんの資質向上に向けたいろいろな勉強会等も岡崎市でしていますので、そういう場に積極的に参加していただきたいです。地域の部分については、特に地域でやっていらっしゃる現場の職員さんに出ていただいて、横の繋がりや情報交換をしていただければいいかと思います。そういう場にもお声かけはさせていただきますので、ぜひ積極的に参加をしていただければと思うので、よろしく願います。

○佐藤委員

みあい特別支援学校の佐藤です。来年の3月に開所予定とありますが、スタッフさんは既に充足していますか。

○株式会社恵（笹本氏）

スタッフに関して、現状募集はしてはいます、ある程度お話をさせていただいて確保してはいますが、これからまだまだ求人を出させていただいて集めていく形にはなります。もちろん、指定の問題ですので、スタッフが揃わなければオープンはできませんが、予定通りオープンできるように努力させていただきます。

○佐藤委員

今までの御社の開所予定はいつも予定であって、結構後ろに遅れてきてしまって、そこはどうかかなという思いがあります。

また、本校の高3の子で、具体的に入れたいと考えている保護者の方もいますが、その子供が利用しようとするときの手続きはどういう風に進めていけばいいですか。

○株式会社恵（笹本氏）

あくまでも予定は予定でありますので、必ずオープンするわけではないので、一度御見学に来ていただいて、希望予定票を書いていただくのが一番いいのかなと思います。一応、内覧会も来年の1月か2月にやらせていただこうかなと思っていますので、まずはそちらに来ていただければと思います。

○加賀会長

障がい者を支援することはなかなか難しいです。支援の大変さがストレスとなり、利用者に向かってしまうことがないように注意していただいて、利用者が自宅にいるような感じで気楽に過ごせるようなスタイルを取ってもらえると一番いいのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

○加賀会長

株式会社恵様の事業者説明は終了しました。本日の事業者説明を基に、意見書を作成してお送りします。株式会社恵様、本日はありがとうございました。

○株式会社恵（笹本氏）

ありがとうございました。最後になりますが、私共の事業所ですが、岡崎市内に来て本当にわからないことばかりで、独自のルールであったり、地域の繋がりの部分であったり、わからない部分が多くありますので、勉強させていただきたいです。御迷惑をおかけすることもあると思いますし、お聞きすることのほうが多くなると思いますが、何卒よろしくお願ひいたします。

○加賀会長

その他、委員の皆様から何かありますでしょうか。

本日の議題は全て終了しましたので、事務局にお返しします。

○事務局（障がい福祉課主任主査 畔柳）

加賀会長におかれましては、議事進行等ありがとうございました。

次回の自立支援協議会は3月1日（月）岡崎市役所西庁舎 701 号室で予定しております。このコロナ禍でございますので、状況を見まして開催のほう検討させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上で、本日の日程は終了しましたので、日中サービス支援型共同生活援助事業開始に伴う事業者説明を閉会いたします。